多賀城市文化財調査報告書第59集

市川橋遺跡

―城南土地区画整理事業に伴う発掘調査略報２―

多賀城市教育委員会
多賀城市城南土地区画整理組合

1.はじめに

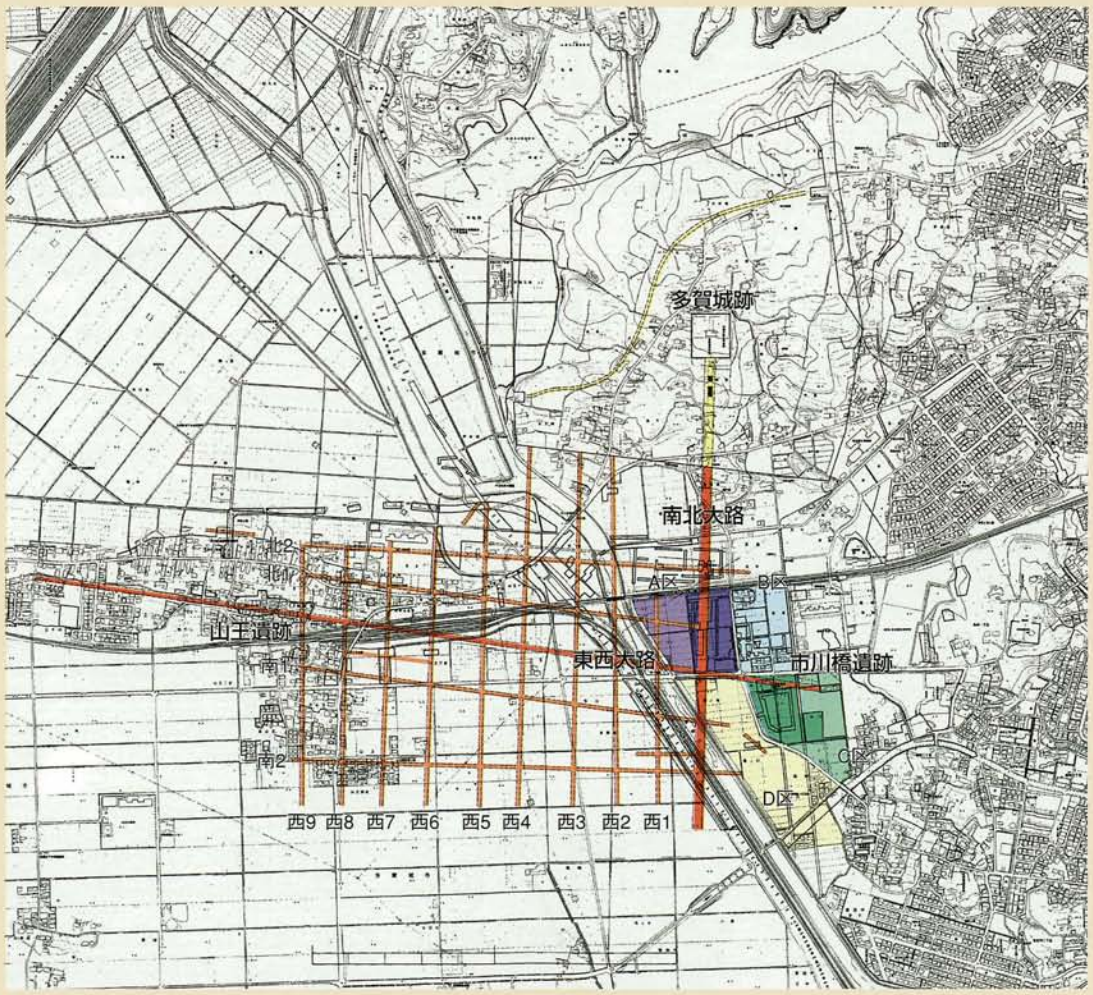
市川橋遺跡は特別史跡多賀城跡の西面から南面に位置する広大な遺跡である。これまでの調査で多賀城城外には「南北大路」と「東西大路」を基準とする方格地割りが施行されていたことが明らかとなっており(第１図)、それぞれの区画からは高級官僚の邸宅や下級役人の住まいなどが発見されている。また、様々な祭祀や仏教儀式が執り行なわれていたことも確認されるなど、古代都市を構成する要素が次第に明らかになりつつある。

今回の調査は、城南土地区画整理事業に伴う発掘調査の２ヵ年目にあたる。昨年度は北東ブロック(B区)を調査し、大型の南北棟建物群やこの地区の東端を区画すると考えられる土塁状遺構などを発見した。今年度の調査区は、北西ブロック(A区)東半部と、南東ブロック(C区)であり、調査面積はA区が約6,600㎡、C区が約7,000㎡である。

2.発見した遺構

A区の調査成果

A区では、44トレンチから66トレンチ間の約200mにわたって南北大路を調査した。44トレンチでは南北大路を横断する東西方向の河川を発見し、大規模な橋が架けられていたことが明らかとなった。66トレンチでは南北大路と東西大路の交差点を確認し、東西大路についてはそれより西に約30mにわたって検出した。一方、南北大路より東側のトレンチでは、多くの掘立柱建物をはじめ、竪穴住居、溝、土壙、河川などを発見した。



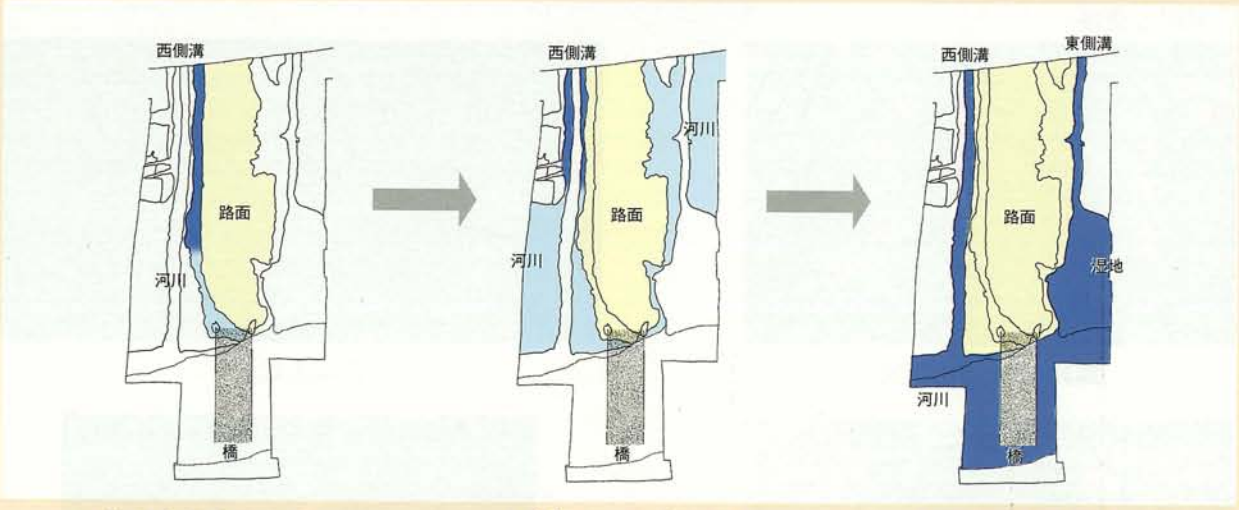
第１図　城外の方格地割りと調査区の位置

［44トレンチ］

多賀城の「朱雀大路」とも呼ぶべき南北大路とそれを横断する河川、河川に架かる橋、道路建設以前の竪穴住居、溝などを発見した。河川からは土師器、須恵器、赤焼き土器などの多量の土器類をはじめ、人面墨書土器、墨書土器、漆紙文書、木簡、皇朝十二銭の一つである「寛平大寶」、金属製品（鐙、刀、刀子、鎌、釘、鉄鏃）、木製品（蓋、人形）、卜骨、動物遺存体（ヒト、ウマ、ウシ、イヌ、シカ、イノシシ）などが出土した。

南北大路（南より）

これまでの調査で、年代は8世紀末から10世紀中葉頃であること、創建時に幅約19mであったものが、9世紀初頭頃には約23mに拡幅されていることが明らかとなっている。



8世紀末頃（創建時）
幅約19m段階の大路。

9世紀～10世紀前葉
幅約23mに拡幅される。10世紀前葉以前には河川によって大きな被害を受けている。

10世紀前葉以降
河川による被害の後、大路を復興している。

第2図　道路の変遷模式図

橋脚検出状況（北東より）

河川に架かる橋の橋脚である。橋の規模は長さ15m以上、幅約6.5mと考えられる。橋脚は約60本発見しており、何時期にもわたって改修されたものと推測される。

橋脚

○河川の遺物

馬具（鐙）出土状況

刀出土状況

人面墨書土器出土状況

人骨出土状況

［66トレンチ］

東西大路と南北大路の交差点を発見し、その北西側では多数の柱穴をはじめ溝、埋甕、土壙などを確認した。遺物は土師器、須恵器、赤焼き土器などの土器類のほかに、緑釉陶器、灰釉陶器、黄釉陶器（中国産）、墨書土器、木簡、皇朝十二銭の一つである「貞観永寶」などが出土した。

東西大路（東より）

これまでの調査で、年代は8世紀末から10世紀後半頃であること、規模は創建当初より一貫して12m前後であったことが判明している。

埋甕検出状況

大路交差点の北西側で2基発見した。いずれも土師器甕が正位の状態で埋設されていた。

遺物出土状況

土師器杯が重なって出土した。

C区の調査成果

C区では、東２南北道路、掘立柱建物、竪穴住居、井戸、溝、土壙、河川を発見した。遺構は西半部の18・20・69トレンチに密集しており、南東部の78トレンチでは溝数条を確認したのみである。また、78トレンチ東端部では地盤が東側に向って低くなっており、低湿地が広がっていることが明らかとなった。

［20トレンチ］

掘立柱建物、竪穴住居、井戸、溝、土壙などを発見した。遺物は土師器、須恵器などの土器類のほか、漆紙文書、墨書土器、木簡、木製品（椀、皿、下駄、人形、斎串）、漉し布、耳環などがある。遺構・遺物の年代は８世紀後半から10世紀頃のものである。

中央部の建物群（東より）
桁行３間、梁行２間のものが大部分を占める。

９世紀頃の井戸（南より）

大規模な溝（南東より）
北半部で発見した古代の溝である。多量の土師器、須恵器とともに、墨書土器や木簡、木製品（皿、椀、下駄、人形、斎串）、羽口、鉄滓が出土した。

[18トレンチ]

東２南北道路をはじめ、掘立柱建物、井戸、溝、土壙を確認した。遺物は土師器、須恵器のほか、墨書土器、木製品（皿、曲物、横櫛、下駄）、金属製品（帯金具）、製塩土器、土製カマドなどがある。遺構・遺物の年代は、８世紀後半から10世紀前葉頃のものである

18トレンチ全景（東より）

東２南北道路（南より）

南北大路から約200m東側で発見した幅4.5mの南北道路である。５時期の変遷があり、年代は９世紀から10世紀前葉頃と考えられる。

[41トレンチ]

掘立柱建物、井戸、溝、土壙、河川を発見した。遺物は土師器、須恵器のほか、灰釉陶器、漆付着土器、墨書土器、木製品（皿、曲物、斎串、絵馬）、金属製品（帯金具）、製塩土器、土製カマドなどがある。遺構・遺物の年代は、９世紀頃のものがほとんどである。

41トレンチ北半部（北より）

井戸（東より）

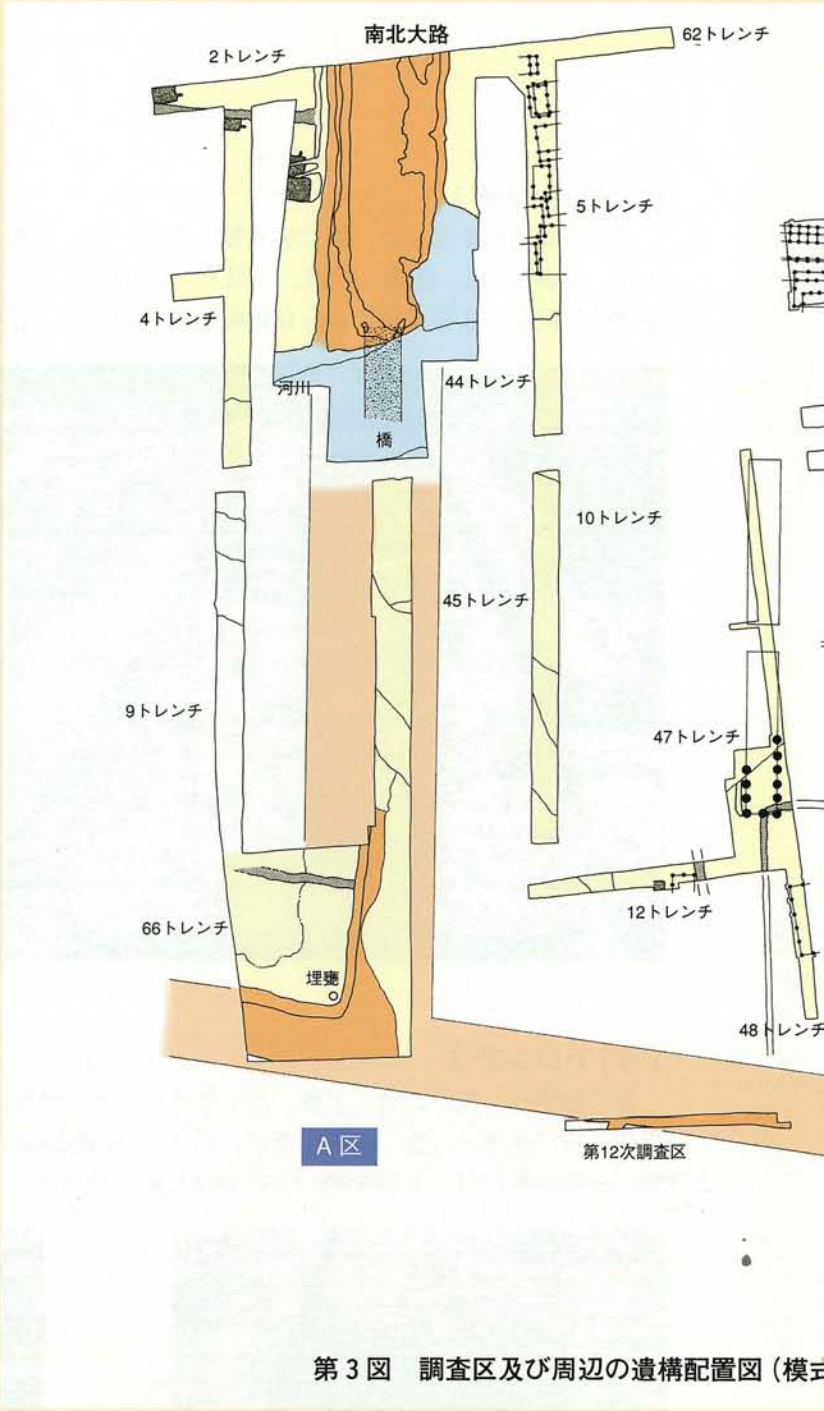
曲物を３段重ね、その外側には径約70㎝の刳り貫き材を密着させている。井戸枠内からは、多数の斎串が出土している。年代は９世紀頃と考えられる。

その他のトレンチ

[５トレンチ]

多数の掘立柱建物をはじめ、竪穴住居、溝、土壙を調査した。建物には10世紀前葉以降のものも確認できる。

5トレンチ全景（北より）

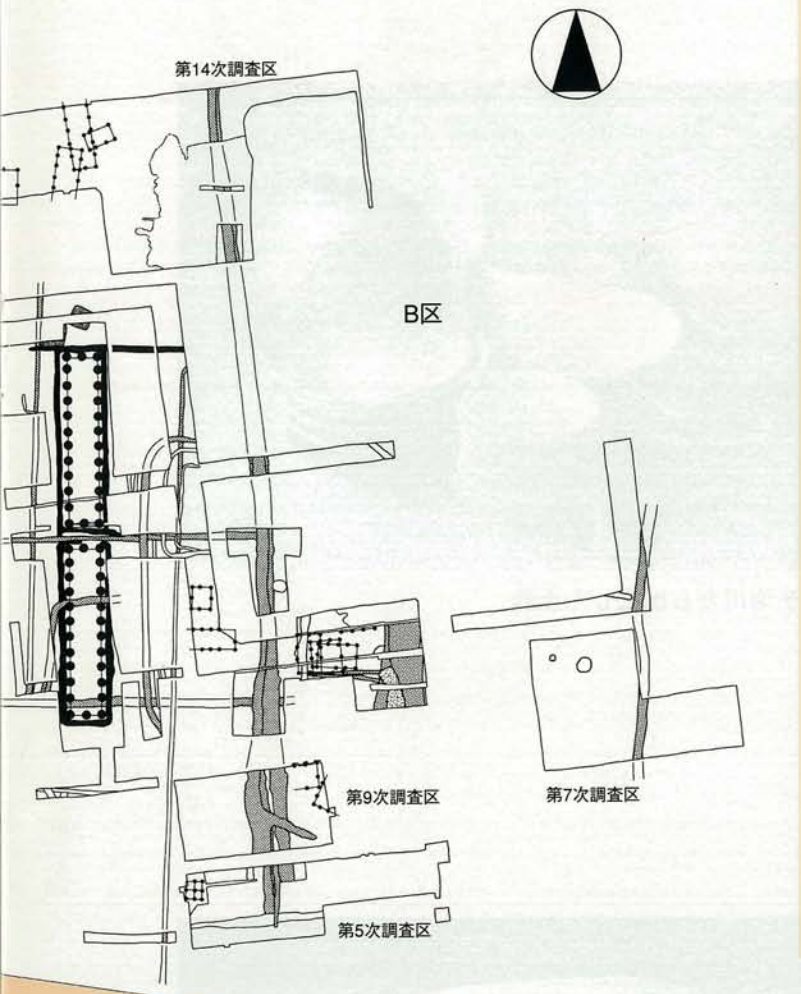


第３図　調査区及び周辺の遺構配置図（模式

[47トレンチ]

大型の南北棟建物、溝、土壙を調査した。大型建物は第24次調査（平成10年度）では２時期の変遷と考えていたが、今回の調査で３時期の変遷があることが明らかとなった。

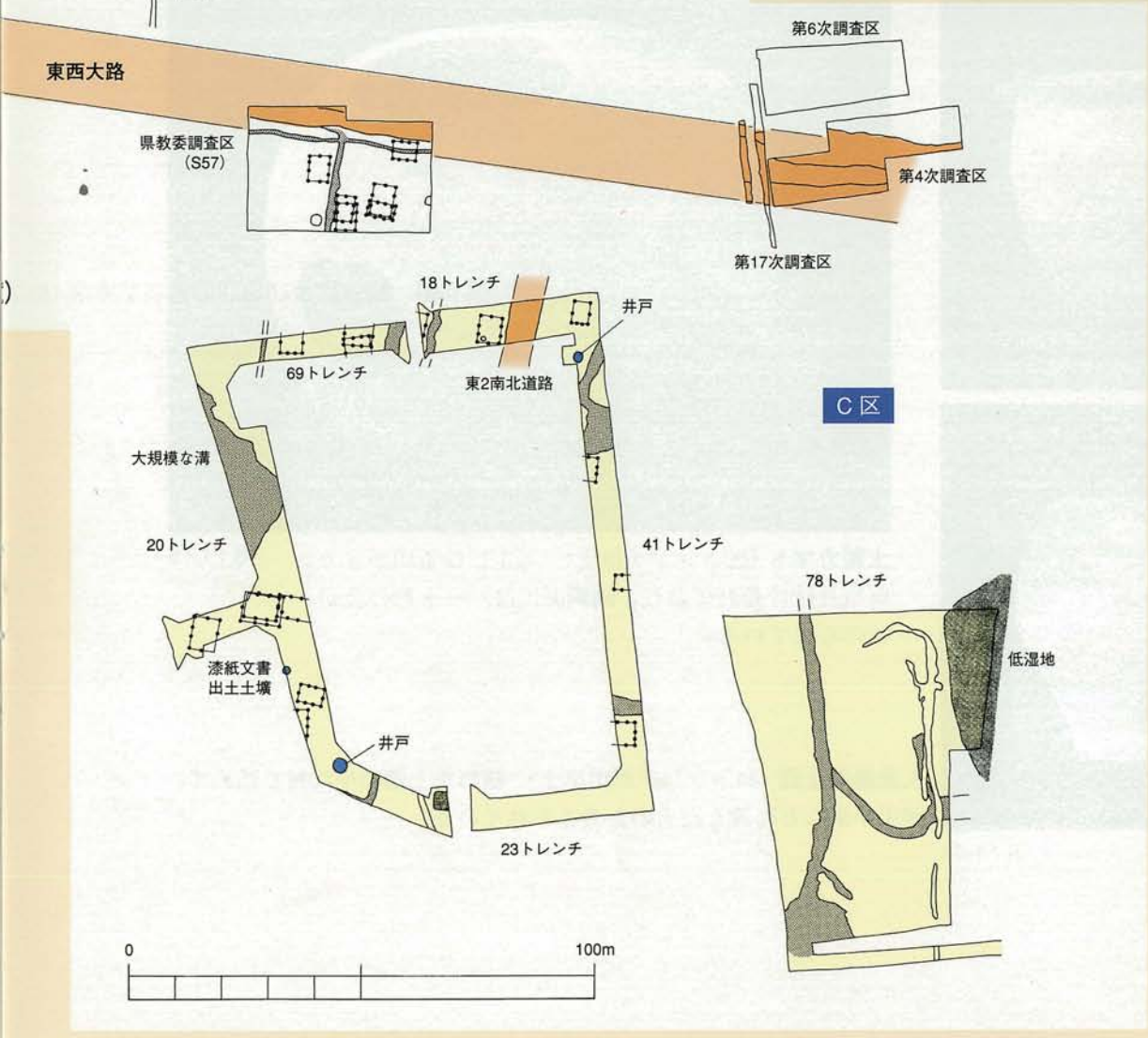
大型建物（南より）



[78トレンチ]

溝、土壙を発見した。このうちトレンチ西側の南北方向に延びる溝からは、人面墨書土器、墨書土器、灰釉陶器のほか、多数の木製品(椀、皿、曲物、絵馬、木簡、人形、斎串)、金属製品(刀子、鎌)、が出土した。

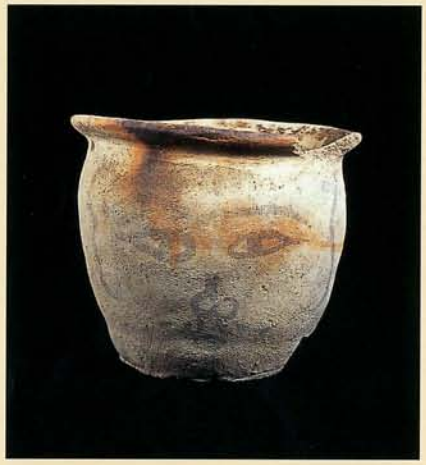
78トレンチ全景(上空より)



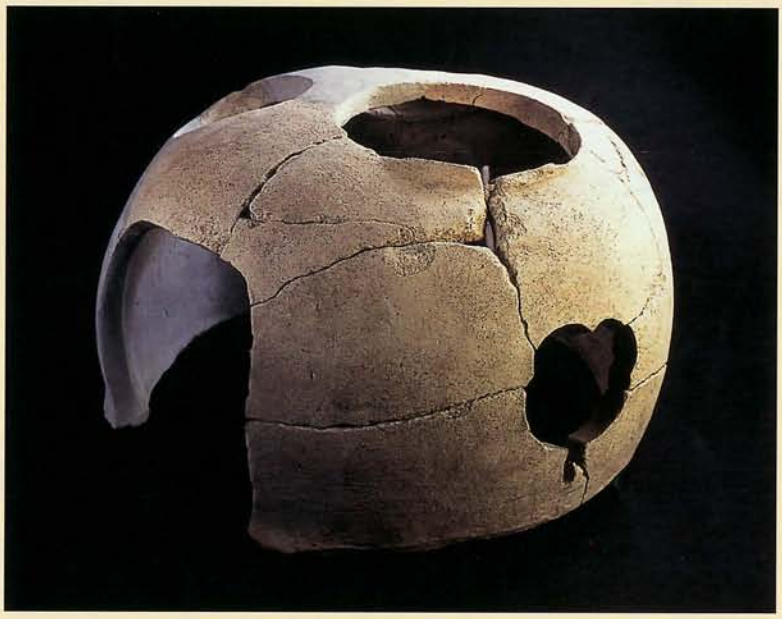
3.発見した遺物

土器類をはじめ鉄製品、木製品、文字資料など多くの遺物を発見した。特に金属製品の種類は豊富であり、44トレンチの河川からは馬具(鐙)、刀、刀子、毛抜き、鎌、鉄鏃、釘、紡錘車などが良好な状態で出土した。文字資料は各トレンチで確認しており、「丈真」などの人名や様々な記号を記した墨書土器のほか、「寶亀三年」(772年)銘のある漆紙文書、付札木簡や曲物の蓋を転用した木簡などがある。また、18・20トレンチからは漆付着土器や漉し布などの漆塗り作業の道具も多く出土した。その他、河川や溝、井戸を中心に人面墨書土器、人形、絵馬、斎串、卜骨などの祭祀遺物、木製品では椀、皿、蓋などの食器や曲物の容器、下駄、横櫛なども発見した。

44トレンチ河川から出土した土器



S：1／4



土製カマド(69トレンチ出土)　天上には釜口が3カ所取り付けられており、両側面にはハート形の孔があけられている。　S：1／5

人面墨書土器(44トレンチ河川出土)　穢れを土器の中に封じ込めて、河川や溝などに流したものと考えられている。

「丈真」

「山田連」

「コ尊丸器」

「縄米」

「田主」

須恵器杯の外面に描かれた仏像？
(44トレンチ河川出土)

墨書土器(1)　多数出土した墨書土器の中には、「丈真」や「縄米」などの人名を記したものや、仏像(？)を描いたものも確認できる。

「夫」

「蔵」

「造」

「色」

「百」

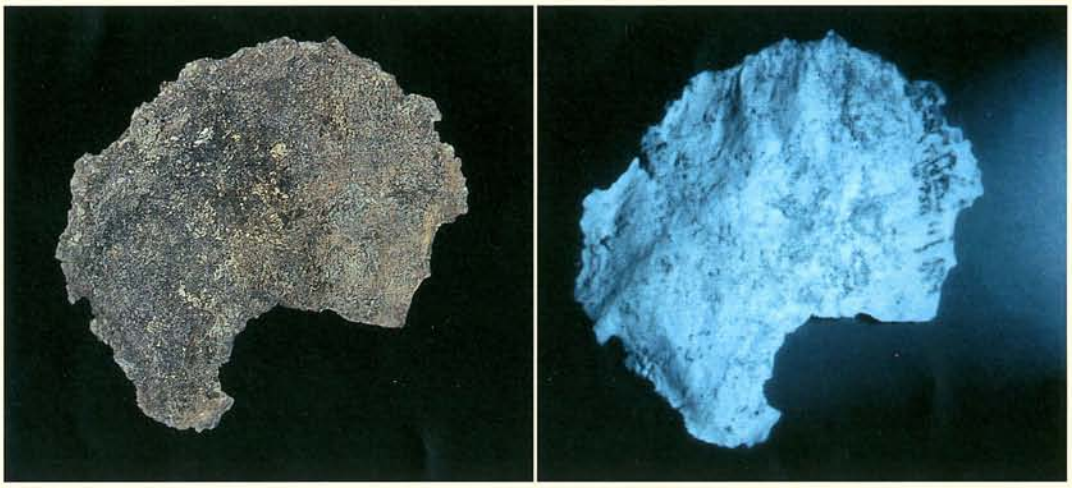
「鞠」

「月」

「全」（全山の合わせ文字）

「在」（在の鏡文字）

墨書土器(2)　上３段は１文字の墨書、下２段は記号を記した墨書土器である。その中でも「☆」は、古代以降の呪符に用いられる魔除けの記号とされている。



S：1／2

漆紙文書（右：赤外線テレビより撮影）　20トレンチ土壙から出土した漆紙文書。「寶亀三年」（772年）の年号が確認できる。

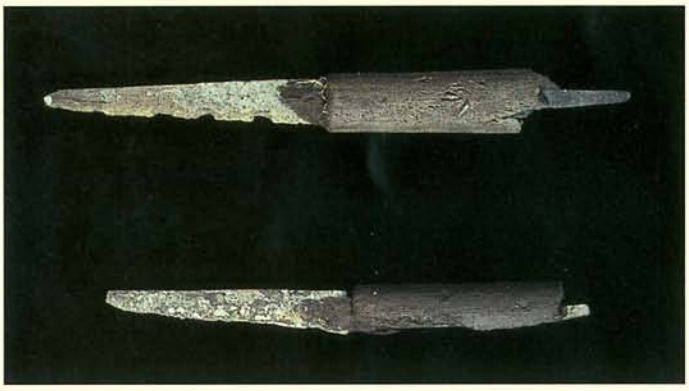
漆付着土器（18トレンチ溝出土）　S：1／3

漆を漉した布（20トレンチ溝出土）
S：1／2

付け札木簡（44トレンチ河川出土）　**曲物容器の蓋を転用した木簡**（78トレンチ溝出土）

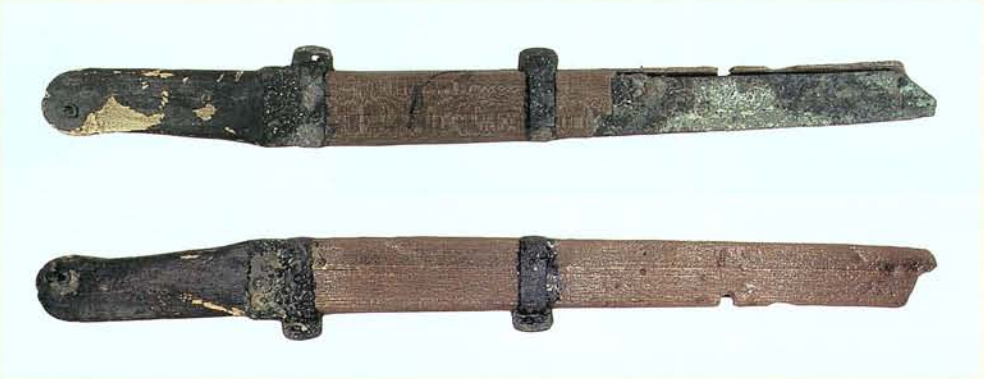
S：1／3

馬具（44トレンチ河川出土） 鉄製の鐙であり、全体に黒色漆が塗られている。



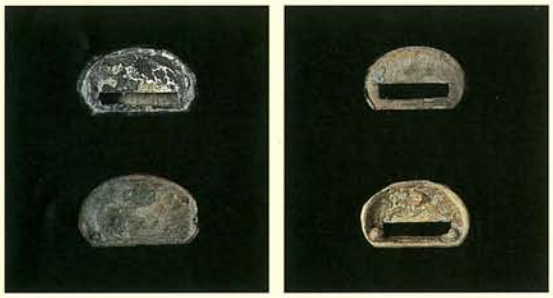
S：1／3

刀子（44トレンチ河川出土） 河川や溝から多く出土した。河川から出土したものには、木製の柄が残存するものもある。



S：1／3

刀（44トレンチ河川出土） 先端部分が欠損するものの、刀身、柄、鞘が良好な状態で残存している。

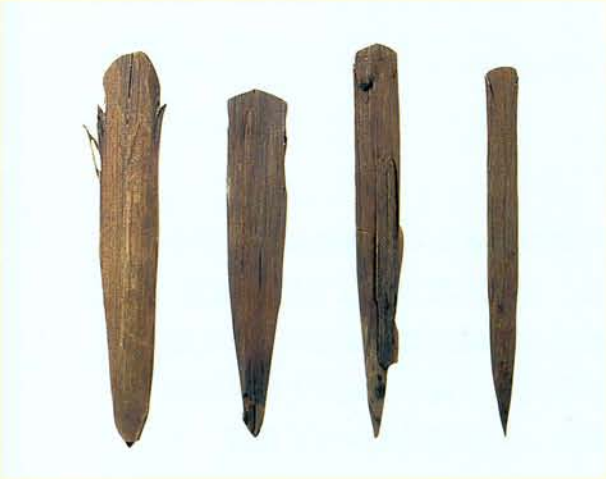


S：1／2

帯金具（右：41トレンチ土墳出土、左：18トレンチ土壙出土） ベルト飾りの一つで、丸鞆と呼ばれるものである。黒色漆が塗られている。

S：1／1

寛平大寶（44トレンチ河川出土） 皇朝十二銭の一つで、初鋳年代は寛平２年（890年）である。



S：1／3

斎串　井戸、溝などから多く出土している。

木製の椀と蓋　精巧なロクロ成形が認められる。
S：1／3

S：1／3

絵馬　78トレンチの溝から多量の木製品と共に出土した。墨痕の残存するものには、鞍や轡などの馬具が明瞭に確認できる。

S：1／4

今回の調査から本書の作成に至るまで、宮城県教育庁文化財保護課、宮城県多賀城跡調査研究所、東北歴史博物館、多賀城市城南土地区画整理組合、大木建設㈱からご指導、ご協力を賜った。また、文字資料については平川南氏（国立歴史民俗博物館）に判読していただいた。

本書の執筆・編集は当センター職員の協力を得て、武田健市が行った。

多賀城市文化財調査報告書第59集

市川橋遺跡

－城南土地区画整理事業に伴う
発掘調査略報２－

平成12年2月25日　発行

編集　多賀城市埋蔵文化財調査センター
多賀城市中央二丁目27番1号
電話（022）368－0134

発行　多賀城市教育委員会
多賀城市中央二丁目1番1号
電話（022）368－1141

印刷　今野印刷株式会社
仙台市若林区六丁の目西町4－5
電話（022）288－6123